

『スタ・カリ』で笑顔はじける！

つき山のツツジが美しく咲き、中庭ではかわいい竹の子が顔を出しました。今年から一年生では『スタートアップカリキュラム』なるものを取り入れました。1時限(45分)を短く分け、楽しく遊んだり、校歌の練習をしたり、遊具の使い方を学んだりしながら、無理なく小学校生活に馴染んでいくための取組です。1年生をむかえる会では、2年生から贈られた素敵なメダルを首にかけ、大きな6年生に手をつないでもらって歩いた1年生。上級生たちの



やさしさに包まれて、泣きべそをかいていた子ども教室を飛び出していた子ども、表情が少しずつ和らいできました。

5月は、『早寝』『汗かき』と『暑熱順化』を！

5月に入ると、これまでの緊張がほぐれた子どもたちが動き出します。「素」の自分が出てきて、様々なところでぶつかり合いも生じてきます。また、やわらかい心を持つ子の中には、春から心のエネルギーをいっぱい使ってきた疲れが出てくる子どもも出てきます。しかし、これらは子どもたちにとって、「友達を知る」「自分を知る」よい機会となります。



映画『あまろっく』の中でお父ちゃんがこんなことを言いました。「食べて寝たら大概のことは何とかなる！」と。このことは、科学的に証明されています。早寝することにより発生するβエンドルフィン等のホルモンが、眠っている間にヒトの脳を修復させる働きがあるからです。この季節、夜更かしをさせず、しっかり睡眠をとらせるようにしてください。

「今年の夏も暑い」と毎日ニュースで取り上げられています。10年に一度の猛暑と言われた昨年でも、本校の児童ホームの子どもたちは、夏休み毎朝大きな水筒を持って登校し、皆、びっくりするほど元気に過ごしました。暑いからと言って、エアコンの聞いた涼しい部屋ばかりに子どもたちを留めおくことは、根本的な「熱中症対策」にはなりません。大切なのは、体温が上がったら「汗をかく」「熱を体外に放出」といった機能をしっかり高め、体の『暑熱順化』を進めることです。子どもたちは、水分摂取や適度な休憩の大切さを既に知っています。加えて、大人いない場所でも自分たちで声をかけ合い、適切な行動をとることができる子どもたちになってほしいと思います。

校長 佐野 正信

